

議長（前原英石君） 5番 山崎知信君。

5番（山崎知信君） おはようございます。最後の通告の山崎でございます。

実りの秋の刈り取りもほぼ終わり、ことしは反当たり600キロ、約10俵どりになっての豊作のようであります。ただ、心白、しらたが多く、この要因ですが、でん粉が100%入っていないからしらたになるということで、検査のほうにはあまり関係ないように思われると思います。

また、明和議員の質問でありましたように、全農とやまの買い入れ価格が安い。これでは農家離れが出てくると思います。現に、2町4反の作付農家が認定農家に預ける現象が出てきております。

国の施策で、農地中間管理機構、農地の貸し出し手の支援が、0.5ヘクタール以下では30万円、0.5ヘクタールから2町以下の方には50万円、2町以上の方には70万円を支援するというので、これは認定農家に預ける法人とか認定農家に預ける支援として国が定めている施策です。農家離れが出ないように、しっかりと施策を検証していただきたいと思います。

それでは、私の一般質問に入ります。

村の事業の検証についてでございます。

村ではここ近年、協同型の事業推進、富山大学との連携、プロジェクトチーム等、新たな取り組みが進められてきました。村長が進める新たな村づくりには協同の精神が欠かすことのできない重要なテーマであることは大変理解できますし、その必要性についても十分理解できます。しかしながら、実際の成果を見ていると、村長の考える理想とはかなりかけ離れている感じがしてなりません。

村の最近の事業を見ていると、健康構想に基づく健康フェスティバルは各種団体との連携が密にできていないため参加者も少なく、今年に至っては、イベントの予算化がなされているにもかかわらず、いまだに開催もされておられません。

ほかにも、ばんどり太鼓の活動拠点であったばんどり会館、これは旧農業振興センター、幼稚園の前、舟橋会館前です。それと舟橋会館のトレーニングルームの閉鎖など、次にどうつなげるかの構想が進まないため、施設や団体の活性化を阻害してしまっているものも少なくありません。

さて、ここからがいいところですが、私が何度も一般質問している南口の玄関構想も遅々として進まず、「今やっています」という答弁がなされるも、実際には何も進んで

いないのが現状のように思えます。

ここに、ある会合がございます。舟橋村南部地区周辺開発計画検討委員会、これは25年10月29日に開催されたものです。この資料を見ますと、舟橋村の現状、地権者開発計画についてということで、1回目が開催されてございます。それと、第2回目の開催ですが、26年、ことしの3月28日に開催されてございます。その中身を見ると、資料第3番目の舟橋村環境総合整備計画案についてでございます。それから約6カ月間たっていますが、何の検証もされていないのが現状ではないでしょうか。

私は、議会のときだけ都合のよい答弁をして、実際の仕事の検証がなされていないため実績が上がらないのだと思います。大きな事業だけでなく、日々の検証もしっかりできていないことが次につながる仕事になっていない大きな理由だと思います。

毎年補正予算を組む必要がある職員の時間外勤務にしても、こうした検証がしっかりできていないから、毎年同じ仕事をしているにもかかわらず、時間外勤務が減らず効率の上昇がない、強いて言えば、だらだら仕事をしている印象が強くなります。毎年の時間外勤務については、担当課長がきちんとそれぞれの職員の職務分担を検証した上で、時間外勤務の内容等をきちんと検証する必要があるのではないのでしょうか。

民間では各部長が、職員が時間外勤務する場合は必ず文書で提出して、部課長が見て、この文書ならあしたできるがでないか、あしたのお茶飲んどるときでもできるがでないかという検証をされて、なるべく時間外を減らす努力をしております。時間外があれば、住民サービスはもっともっと向上してもらいたいと私は思います。

また、数年前に発足した健康な村づくりプロジェクトチームや人口問題プロジェクトチーム、議会への報告もほとんどないことから、現在の進捗の状況やどのような検証が行われているかも見えてきません。プロジェクトチームのメンバー構成にしても、どのような経緯で現在のチームが組まれたのか疑問に思えることがたくさんあります。数年にわたるプロジェクトであれば、最低でも議会が開催されるときには進捗の状況や検討されている内容を報告すべきだと思います。

近年の主要事業を見ていると、実効性の乏しい事業計画、計画のための計画、横文字ばかりの計画といった印象のものが多く、その計画が一体村にどのような形で反映されているのか全くわからないものがあります。

私は、計画を立てることがよくないと言っているわけではありません。きちんとした計画に基づき事業が実施され、村民に見える形での実績を出せることが大切だと思います。

す。

それでは、これまで述べたことに対する村の考えと今後の方針等についてお聞きします。

これで通告しておりました質問を終わります。ありがとうございました。

議長（前原英石君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 5番山崎議員さんのご質問にお答えいたします。

村が実施する事業にはそれぞれに目的がありまして、その事業目的を達成するための手法があります。事業計画には、これまでの取り組みを踏まえまして、現状分析を行った上で、目標を明確化いたしまして、それを実現するための手法を示しているのがあります。

また、事業実施後は、その成果を振り返りまして、より一層の事業効果を求め、また新たな手法を検討するPDCAサイクル、いわゆる計画、実行、点検、改善のマネジメントサイクルの確立が大変重要となっております。

しかしながら、本村におきましては、その体制が十分に確立されていなかったこともありまして、平成24年度からは、富山大学のご協力を得まして、主事クラスを中心とした若手職員を中心に、職員研修として実施してまいりました。

昨年的人口問題プロジェクトでは、これまでの村の事業の取り組みを調査し、村独自の視点でコーホート分析による今後の人口予測、そしてまたクラスター分析によりまして北陸3県における舟橋村の位置づけを明確にし、村の抱えている課題を掘り下げること、合計14回の調査研究、職員研修が行われておりまして、新たな人口流入策と住みやすい環境づくりの施策に係る2つの提言をもらっております。そして、この調査結果を踏まえて、村の将来を見据えた人づくり、地域づくり施策を示した計画が、先般、全員協議会でご説明いたしました舟橋村環境総合整備計画であります。

また、平成24年度に策定いたしましたふなはしむら健康構想では、健康に関する国の方針を踏まえまして、平成23年度には20歳以上の方にアンケート調査を実施し、現状分析を行った上で計画を策定しております。昨年度平成25年度では、健康構想の主軸となりますソーシャルキャピタルの醸成の取り組みに向けた先進事例の検討と、地域施策に反映させるための体制づくりを構築し、今年度から健康行動の促進と地域連帯の促進を目指して本格的な事業展開を進めておるわけでありまして。定例会の初日の提案理由でも述べましたけれども、10月2日には鏡森富山大学名誉教授や田中南砺市長さ

んほか7名の専門家のご協力を得まして健康構想外部評価委員会を開催し、ご意見をいただきながら事業に反映してまいりたいと考えておる次第であります。

議員からご指摘ありました健康フェスティバルにつきましては、3年前の平成23年度に各種団体の責任者に集まっていたきまして情報交換会を開催いたしました。多数の団体から、会員の高齢化に伴う人手不足と事業のマンネリ化もあってか、参加者の減少がとまらないといった厳しい現状報告がなされたのであります。この課題究明のために、各種団体の長と役場担当者等で組織する団体連携会議を立ち上げまして、組織の活性化と新たな人材発掘に向けた取り組みの中で生まれてきたのが健康フェスティバルであります。関係する各種団体が主催する事業を、言いかえれば住民主体の事業として実施していただいております。

そして、関係職員はあくまで皆さんを側面から支援するスタッフとして、縁の下の力持ちとして参加させております。

これまで2回開催いたしましたが、今年度はエイジレスの皆さんの地域参画をテーマに掲げまして、去る7月13日の日曜日にスマイルフェスティバルを開催いたしました。先ほど議員さんがおっしゃったように、名称を変えたということもありますので、そういう点、ご理解いただきたいと思います。

開催に当たり、地域の連携を深めるため、団地層のエイジレス世代へのアプローチを行いまして、フェスティバル当日は団地から22名の参加をいただきました。参加者からは、「声をかけてもらい、初めてこういった集会に参加した」、そしてまた、「村歌の『ちっちゃな舟橋村』はテンポがとてもよく楽しい歌だった。また参加したい」という声もいただいたわけではありますが、目標としておりました参加人数には届かない結果となった次第であります。今後は交流を深めるためにも、エイジレスカフェ等を開催いたしまして、多くの方々が参加しやすく楽しめる雰囲気づくりに努めてまいりたいと考えております。

また、これからの地域づくり手法の核とも言える協働型まちづくりに向け、前述で申し上げましたとおり、事業検証を踏まえて、次年度に反映させる仕組みが少しずつながら定着してきていると思っておりますが、村が目指しております自助・共助・公助の住民主体のまちづくりにはまだまだ道半ばであると実感している次第であります。これにつきましても、先ほど山崎議員さんが実感として捉えられないと評価できないというのがここに私はあると思っております。しかしながら、私は、時間がかかりますけれども、皆さ

ん方からご理解をいただくように、粘り強く実現に向けて努力してまいり所存であります。

先ほど職員の時間外勤務のことに触れられましたのでちょっと申し上げておきますけれども、職員は通常勤務以外にいろいろとこういった事業の研修なり、あるいはまた総ぐるみで、職員同士で連携しながらやるということもございまして、そうなりますと、どうしても勤務時間外にこういった会議を開催しなくてはならない等々がありまして、時間外勤務手当が増嵩の傾向にあるということを一とつまたご理解いただきたいと思えます。ご指摘あったように、やたらに職員がだらだらしておるという意味ではございませんので、そういう点はきちんとした、毅然とした勤務であるということも、また後ほどご報告させていただく機会を持ってまいりたいと、こういうふうに思っております。

いずれにいたしましても、私はやはり、住民の皆さんに信頼される役場であり、そしてまた職員でなければならぬということを常々思っておるわけでございますので、またその面で職員を指導してまいりたいと、このように思っておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

また、ご指摘ありました情報の共有につきましても、まちづくり事業を展開するためには欠くことができませんので、事業の進捗状況が計画どおりに進まないということもあって議会報告が遅れるケースが多々あったように思っております。そういったことは素直に反省いたしまして、議員各位にご迷惑かけないように、今後とも機会あるごとにそれぞれの事業の進捗状況を報告いたしまして情報の共有化を図ってまいりたいと、このようにも思っておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。今後ともそういった気持ちでまちづくりを進めてまいりますので、皆さん方のご理解を賜りますようお願い申し上げます、私からの答弁にさせていただきます。

よろしく願いいたします。

議長（前原英石君） 山崎知信君。

5番（山崎知信君） 今の村長の答弁は確かに立派な答弁だったと思えますけれども、舟橋村環境総合整備計画プラス南部地区周辺開発計画、どうして6カ月も開催されていないのか。東京のほうで500万のお金を出してわざわざつくっているのに、私は不思議でなりません。

そしてまた、米の消費の拡大に対しても、村長は最近ワインセラーを購入されてワインをたしなんでおられるとお聞きしますが、舟橋村の産業は米でございますので、お酒

のほうをたしなんでもらいたいと思います。お酒のほうも、「満寿泉」や「立山」、上市の「白萩」ではなくて、舟橋の米のお酒も販路拡大、拡販していただいてやってもらいたいと思います。

村長は来年、ある会長職に就任されると私は聞いております。そしたらますます忙しくなることと思いますが、決定した事項が骨抜きにならないように、もっともっとフォローアップしていただきたいと私は思います。

以上でございます。

議長（前原英石君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 山崎議員さんの再質問にお答えしたいと思います。

舟橋村の南の玄関口のほうを仕上げて今まで来ておるわけでありまして、そしてまた、ことしの3月に策定いたしました舟橋村総合環境整備事業におきましても計画を持っておるわけでありまして。

いろいろと地区の話が出ておりますけど、私がこの9月の定例議会の提案理由説明の中で申し上げましたとおりでありまして、今、官と私ところの民と一緒に住宅関係のものを具体化しようということで試みておるわけでありまして、それはもうしばらくの時間をいただきたいと思います。

そして、やはり進めるからには後戻りはできないわけでありまして、慎重にそういった計画を練り上げていく、詰めていくということも私は大切だと思っております。

そういうことで、次回といいますか、12月の定例議会にはそういった何か日が見えるようなお話ができるというふうにも思っておりますので、またその面を考えて動いていただきたいと、こう思うわけでありまして。

それから、米の話も出ましたとおり、ここに記者さんがおいでになるわけでありまして、私も何とか舟橋のブランド米といいますか、やはり3,000の人が舟橋村でとれた、収穫された米を食べて生活すると。そして、残った量はほかの地区のあるいはまたいろんな手法を用いましてそれを食べてもらうような方向、処理と言ったほうがいいですか、そういったことも含めた前向きな姿勢もあっていいんじゃないかなと思うところがあるわけでありまして。

いずれにいたしましても、やはり3,000人の大家族だと私も思っておりますので、そういった大家族を仕切っているのはいいですか方向づけているのは行政であるということも責任は重いわけでありまして、そういった視点に立って今後進めてまいり

たいと、こういうふうに思っております。

いずれにいたしましても、私一人の力ではできませんので、いろんな面で委員の皆さん方のご支援を賜りますようお願いいたしまして、私からの再質問に対する答弁とさせていただきます。

よろしく願いいたします。